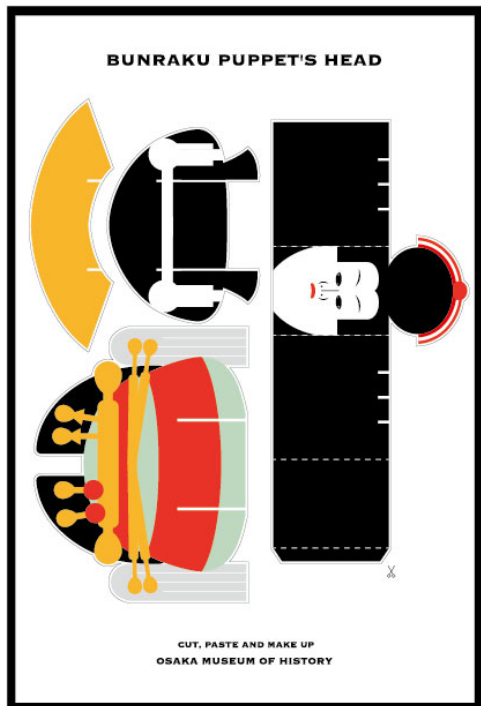


OSAKA MUSEUMS COLLECTION

No.6

大阪歴史博物館
文楽人形かしら

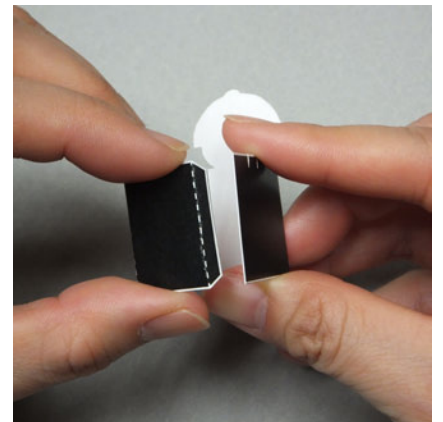


作り方

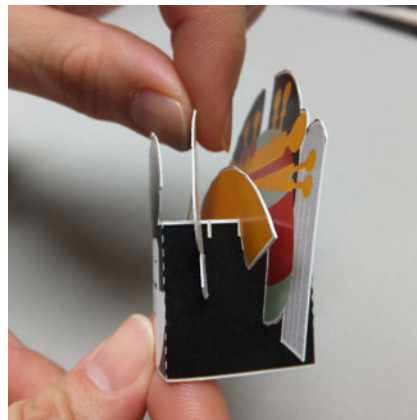
————— 切り取り線
----- 山折り線



①切りぬいて、白い実線に切り込みを入れる。



②頭部をのりしろで貼り合わせる。
※カッターの背などで、折目をつけておくとうわかりやすい



③切り込みに合わせて、3つのパーツをさし込む。



④できあがり。



文楽人形かしら けい せい 傾城

BUNRAKU PUPPET'S HEAD, KEISEI

櫛・笄（こうがい）・簪（かんざし）で飾り立てられた立兵庫という独特の髷を結った女方のかしら（首）で、高い格式、諸芸を身に着けた高位の遊女の役に用いられます。「廓文章」（くるわぶんしょう）の夕霧などが代表的な配役です。仕掛けには、うなずきや眠り目の動きがあって、ノドの下の胴串（どうぐし）という持ち手にある引栓（ひきせん）や小猿（こざる）とよばれるレバーを動かして操作します。幕末～明治期を代表する人形遣い、初代吉田玉造（1829～1905）の旧蔵品で、傾城かしらの名作といわれています。

<http://www.mus-his.city.osaka.jp/>